

陰惨な題材と前衛的な音楽で話題を呼んだ《エレクトラ》ではじめて手を組んだ作曲家リヒャルト・シュトラウスと台本作家ホフマンスタールが、次作《ばらの騎士》の舞台に選んだのは、貴族文化と市民文化のせめぎあう18世紀マリア・テレジア時

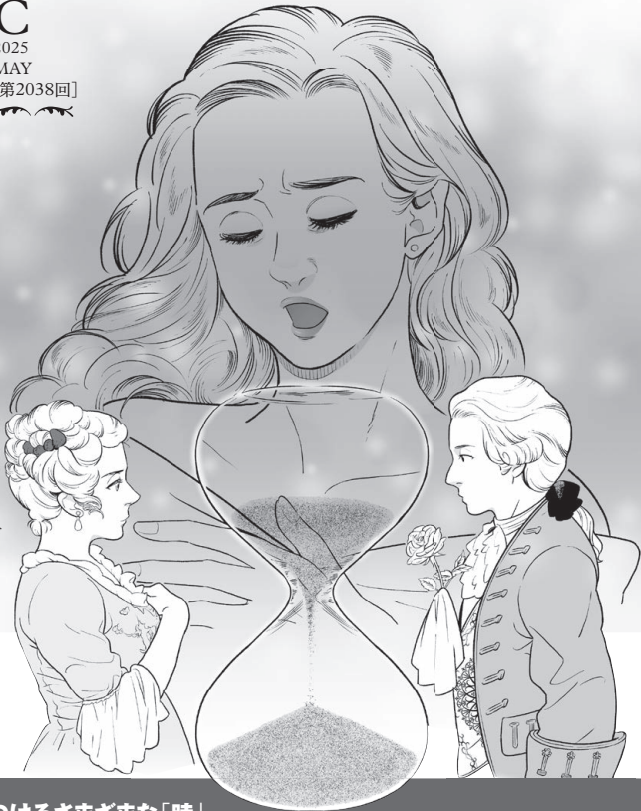
代のウィーン。音楽史上一二を争う名コンビといわれるふたりだが、このときはシュトラウスがホフマンスタールに^{ぼうだい}膨大な手紙で注文をつけ、ぐいぐいとリードするかたちで、この世紀の大ヒット作を完成させた。

Der Rosenkavalier

「時」の交錯を描くオペラ ばらの騎士

C
2025
MAY
[第2038回]
X X X

年下の愛人オクタヴィアンが若いゾフィーに惹かれていくのを見て元帥夫人は「自らの時」の終わりを自覚する
イラストレーション：©IKE



ワルツが結びつけるさまざまな「時」

流れるように甘美な音楽をバックに、元帥夫人、オクタヴィアン、ゾフィーの恋愛模様が描かれるオペラ…… と思いきや、シュトラウスは当初《オックス》というタイトルを考えていた。オックスとは敵役の粗野な貴族。彼がロザさむワルツは、大人と若者の世代交代、貴族の没落と市民の台頭といった「時」の交錯を描くこのオペラの随所に、あたかも狂言回しのように現れる。